

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

産業動物及び公務員獣医師確保に向け 新たな検討の場を設置

厳しい獣医師確保

一昨年の12月、道内の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザに罹患した鶏が確認され、極寒の中28万羽を殺処分するという大変な役割を担っていただいたのが公務員獣医師の皆さんです。

しかし、公務員獣医師は、保健福祉部や農政部などでの必要数536名に対し、466名しか配置されており、70名が欠員なのです。



一般質問で獣医師確保や農業政策などで知事を追及(3月8日)

さらに、産業動物獣医師についても735名が現場で活躍されていますが、再雇用や嘱託獣医師などで何とか確保している実態であり、本道の酪農・畜産の安定的な発展を図る上で、獣医師の確保は極めて重要な課題なのです。

就学資金を提案

今回私は、北海道獣医師会や共済組合の皆さんと意見交換を行い、獣医師確保に向けて「就学資金を貸し付け、獣医師を確保すること」を提案。知事からは、「就学資金の活用も含め、獣医師

確保に向け、関係団体等と連携し検討の場を設ける」との答弁を得ました。

今後、道が主体的役割を担い、北海道獣医師会や共済組合の皆さんと協議を重ね、北海道の酪農・畜産を支える獣医師が確保できることを期待しています。

減り続ける農家戸数

高橋知事が就任したのが、2003(平成15)年。知事就任から15年で33万人の人口が減少し、旭川市の人口に匹敵する規模であり、ほぼ旭川市が消滅したことになるのです。

同時に、農家戸数も大きく減少し、高橋知事就任時の農家戸数は5万9080戸、現在は3万6300戸と、知事在任中に2万2780戸も離農しました。

これは、国に追随し、新たな国際環境下にあつて、競争力強化といながら、規模拡大を強力に押し進め、小規模農家を切り捨てた結果なのです。私は家族経営

で、小規模農家であっても持続的に営農が続けられる支援が必要だと考えます。

危険なEPA交渉

政府は、欧州とのEPA交渉において、ソフト系チーズを年3万1千トン輸入することを受け入れました。

政府の説明では、国産の生産拡大と両立できる範囲内に留めたとのことですが、仮に3万1千トンのチーズがすべて外国産に置き換わるとしたら、北海道酪農には大きな影響が出ます。

私の試算では、3万1千トンのチーズを生乳に換算すると10倍の31万トンが必要で、これを生産するには家族経営酪農の500戸以上に相当する量なのです。

しかし、国も道も乳製品の消費が拡大し、影響は限定的と強弁しており、今回の質問でも道は、「道産乳製品の消費拡大や、チーズ工房への品質向上などの支援する」ことだけにこだわりの、認識の甘さを指摘しました。

第1回定例道議会報告(2月21日~3月20日)

第1回定例道議会は、2月21日(水)に開会、平成30年度北海道予算、言語としての手話の認識の普及等に関する条例、障がい者の意思疎通支援条例、民泊条例、自転車条例、「旧優生保護法において実施された優

生手術に対する補償等の早期解決を求める意見書」などを可決し、3月20日(火)に閉会しました。

依然と厳しい道財政

平成30年度道予算案は、一般会計2兆7498億円、特別会計1兆1186億円、の合計3兆8684億円。



手話条例及び意思疎通条例の同時制定を喜ぶ北海道ろうあ連盟の皆さんと記念撮影(3月20日)

一般会計は前年度当初予算と比べ微減ですが、特別会計は国民健康保険の都道府県化に伴い国保事業特別会計が5千億円規模で設置されたことなどから、前年比72.6%の大幅増加となりました。

また、道税収入は伸び悩み、地方交付税は減少し続けた結果、道債への依存度は23.9%と2年続けて上昇。30年度末の道債残高見通しは5兆7800億円と、なおも巨額で、危機的、綱渡りの財政運営です。

知事目標は中央ばかり

知事は、30年度予算の重点政策を「未来創生予算」と名付け、「人口減少の危機突破に向け、地域創生の成果を確かなものにする」としています。しかし、この発想は、次々に目先ばかりを変え迷走を重ねる政府の地方創生に、翻弄される地域の思いとは、かけ離れたものであり、就任以来15年を経過しても、地域に足をつけず、中央にばかり目が向く知事の道政運営の姿勢が反映されたものです。

生活基盤は危機的状況

地域では、暮らしていく基盤である医療、子育て、介護などが危機的状況にあ

り、暮らしや産業に欠くことのできない公共交通が揺らいでいます。特に、一昨年秋にJR北海道が表明した路線問題を巡る道の対応は依然として主体性を欠いたままで1年半近くが経過し、道民や地域の懸念は深まるばかりです。

さらに高齢化の進展で、

あらゆる分野での人手不足が加速し、医療や福祉にとどまらず、運輸交通や商業など、地域で暮らすために欠かせない機能が失われつつあります。提案された予算案では、こうした山積する課題への具体的で実効性のある対策は不十分です。

会派は、本会議における代表質問・一般質問、予算特別委員会を通じ、JR路線問題をはじめ、人口減少対策、各分野での人材確保策、働き方改革への対応、観光施策、国際交渉への対応、エネルギー施策などについて論議を展開。しかし知事の答弁は、難局を打破する意欲に欠け、道民の先頭に立

って北海道の未来をつくりあげていく方向性も熱意も伝わりませんでした。

こうした議論経過などから私たち会派は、平成30年度一般会計予算案について組み替えを求める動議を提出し、反対しました。

新たに制定された条例

- ▼北海道債権管理条例
- ▼北海道犯罪被害者等支援条例
- ▼北海道障がい者の意思疎通の総合的な支援に関する条例
- ▼北海道言語としての手話の認識の普及等に関する条例
- ▼北海道自転車条例

採択された決議・意見書

- ◆2025年国際博覧会の誘致に関する決議
- ▼高齢者や若年成人等の消費者被害を防止・救済する実効的な消費者契約法改正を求める意見書
- ▼北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた推薦に関する意見書
- ▼根室海峡海域におけるロシア連邦トロール漁船に関する意見書
- ▼旧優生保護法において実施された優生手術に対する補償等の早期解決を求める意見書

写真で振り返る北口道議の活動記録(1月~3月)



占冠消防出初式(1月5日)



恒例となっている新春街宣活動(1月2日)



富良野消防出初式(1月7日)



士別市消防出初式(1月6日)



美瑛町農民連盟定期総会(3月3日)



全上川農民連盟定期総会(2月5日)



士別市新年交礼会での鏡開き(1月5日)



JR四国の観光列車を視察(2月1日)



■ 創成自治会の麻雀大会に参加(3月11日)



■ 歩くスキー大会でスタートを務める(2月25日)

北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kitaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(1月~3月分)



士別市成人式であいさつ

◆1月7日【士別市成人式】
▼今年士別市で成人を迎えるのは158名の皆さん。
式典に先立ち、柴山さんと青木さんによる琴及び国井さんのフルート演奏、また安川前教育長からは高村幸太郎の「私は青年が好きだ」の朗読などで、新成人をお祝いした▼式典では、及川優也さんと吉越優来さんによる市民憲章の朗唱に始ま

り、牧野市長からの贈る言葉、私からは「目標を持つ、まわりを見る余裕を持つ、ふるさとを思う」などと挨拶。結びは新成人を代表し鴨朱音さんの誓いの言葉で式典を終えた。



宗谷線ブロック定期総会

◆1月12日【宗谷線ブロック定期総会】▼全上川農民連盟宗谷線ブロック協議会(外川悟議長)の定期総会に出席▼外川議長は、「この一年

中央要請に明け暮れた一年だった。それほど、農業政策にとって厳しい一年であった。国の農政改革は、どの方向に我々を持っていくようにしているのか、しっかりと見極めなければならない」と挨拶され、私からは政府が

昨年暮れに発表された日EU・EPAやTPP11の影響結果について、「関税が撤廃されることにより農産物の販売額が下がり、生産額が減少するとしているが、国がコスト削減対策や品質向上の取り組みを進めれば、生産量は減少しないとしている。そんなことはあり得ない。生産額が下がれば、その作物を作ることではなくなる」と指摘し、国際貿易交渉に反対する決意をお話した。



根室線存続の要請

◆2月19日【根室線存続要請】
▼南富良野町議会(伊藤健議長)、占冠村議会(相川繁治議長)、新得町議会(菊地康雄議長)の21名の皆さん

が道議会に来庁し、平成28年8月の大雨災害で不通となっている「JR根室線の東鹿越-新得間の早期復旧を求める要請書」をお受けした▼不通となっている東鹿越-新得間の早期復旧を図る理由として、道北・中空知圏と道東圏を結ぶ幹線、観光インバウンド増による足の確保、学生・交通弱者の足の確保などをあげられ、鉄道の早期復旧と存続を求められた。



温根別冬まつりであいさつ

◆3月11日【東日本大震災から7年&温根別冬まつり】
▼今日のはかつて私たちが経験したことのない東日本大震災から7年。いまだ復興はなされておらず、原発事

故による影響でふるさとに帰還もできない。一日も早い完全復興と原発に依存しない社会の実現を目指さなければならぬ▼今年で26回目となる「温根別冬まつり(寺崎徳仁実行委員長)」に参加。今日は、素晴らしいお天気に恵まれ、多くの皆さんで賑わった。

【おまけ】

▼財務省は、森友学園への国有地売却にあたり、公文書を書き換え(改ざん)したことを明らかにした▼公文書は、行政の仕事記録に残し、事後にその仕事や国民生活にどのような影響を与えたかを検証するため重要な書類だ。それを改ざんするということは、歴史を歪めることにつながる。同時に、犯罪行為である▼どのような経緯で改ざんしたのか、そのことが国民にどのような影響を与えたのかをしっかりと検証し、国民に明らかにすべきだ▼政治は緊張感が大事だ。緊張感がなくなった政治は腐敗する。そう考えると安倍政権は末期に近づいている。政権交代できる環境を早急につくる必要があると感じているのは、私だけではないだろう。(ゆうこう)